

優秀賞

澁川 音(しぶかわ おと) 由木中央小 6年生

作品名:世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ

図書:世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ

「貧乏とは、少ししか持っていないことではなく、かぎりなく多くを必要とし、もっともっととほしがることである。」

と、2012年リオデジャネイロで行われた国際会議でそう発言したのはウルグアイのムヒカ大統領でした。ウルグアイとは、日本のちょうど裏側にある南アメリカ大陸の小国です。その国のムヒカ大統領は大統領とは思えない生活を送っています。この物語は人類の幸福は何かを問いかけている物語です。

私は、大統領とはお金持ちのように豪邸に住み、花や野菜は作らず、給料の大半を自分や家族のために使っている人と私は思っていました。でも、ムヒカ大統領は豪邸に住んでいません。そして花や野菜を自ら作ります。さらに、給料の大半を貧しい人のために寄付します。そんなムヒカ大統領を私は、すてきですばらしいと思い、そして他の大統領とはちがうなと思いました。

私はこの物語の中でムヒカ大統領が貧乏のことを説明している場面が一番心に残りました。この物語を読む前までは、貧乏とは持っている物が少なく、裕福な暮らしができない人達の事を示しているのかと思っていました。でも貧乏とは、持っている物が少ないのではなく、いくら物があっても満足しない事だと知り、貧乏という言葉への見方が変わりました。

ムヒカ大統領が会議で一番伝えたかった事はきっと、人類が「他人より豊かになるために」だけを求めて生きてきたため、家族や友人、他人を思う気持ちがなくなっていました。今、私達の目の前にある危機は地球環境の危機ではなく、人間の生き方の危機ではないかということだと思いました。確かに今の私達は、他の国や他の地域、他の県に何が起きても助けに行きません。ですが、いざ、自分の住む地域に何か起こったら、他の国や他の地域、他の県に助けを求めるのです。そんな事はおかしいと思いました。そこで私はまず、周りの人を思う気持ちを取りもどし、助け合う世界にしていきたいと思いました。

そしてムヒカ大統領が問いかけた人類の幸福は、
「人と人が幸せな関係を結ぶこと、子どもを育てること、友人を持つこと、地球上に愛があること。」

と、いっています。私はこの言葉の意味は、人を愛することだと考えました。なぜなら私達人間は人々を愛しているから協力ができる愛しているから人の応えんができて、愛しているからこそ生活ができると思ったからです。もし、地球から愛が消えてしまったら人々と人々が関わる事ができなくなり、悲しく切なくそして、幸せではない人生を送ってしまいます。私はそんな幸せではない人生を送りたくありません。だから私は、人を愛す事を忘れないようにしたいです。

私はこの物語を読んで、ムヒカ大統領のように給料の大半を寄付して、世界の人々を愛している人がいるんだなと思いました。私に、自分のお金の大半を寄付するような強い意志はありませんが、今、私ができるまわりの人を愛す事をこころがけていきたいです。